

保険毎日新聞「みちくさ保険物語」057

保険史料からみた漫画の歴史(2) 片倉生命の募集資料から

保険の募集資料類には、数多くの漫画家が登場している。作者名が分かる場合ばかりではないが、何回かに分けて紹介する。今回、紹介する「漫画」は、片倉生命の「保険案内」に掲載されたものである。

同社は、大正 10 年 11 月に「片倉財閥」によって設立された生命保険会社である。片倉は、製糸業を中心に発展したが、明治 28 年に片倉組を設立して、業容を拡大し財閥となった。保険会社としては、昭和 8 年に大安生命を合併し発展を図ったが、結局、昭和 17 年に日産生命に合併されている。

保険の「営業案内」等に掲載された「漫画」のうちストーリー性がある漫画は、保険に加入した者に幸福が訪れ、加入していなかった人が不幸になるというものがほとんどである。すでに紹介した帝国生命の初期募集資料に描かれた「漫画」は、その典型的なものである。今回掲載した片倉生命の漫画も基本的には同様のストーリー。しかしその結幕には若干の違いがある。

登場するのが養蚕家で隣人同士の金井安全(かない・あんぜん)さんと崎野明内(さきの・めいない)さん。金井さんは「生命保険を付けるのが一家の幸福の為に最も必要なことを知っている」ので、保険に加入するが、掛金を捻出するために、その分だけ余計に養蚕を行い、またお内儀さんは「牝鶏の数を増やして自分の掛金だけ余分に産ませる工夫」を行なうというのが最初の場面である。これに対して隣家の崎野明内さんは、金井さんの勧めに対して、一向に取り合わない(2番目のコマ)。

3番目のコマでは、「生命保険の加入は一層家業に力が入る基礎」となって金井家が繁栄するかたわらで、崎野さんが焦る様子が描かれている。そこで、崎野さんは、山師につけこまれて多くの財産を失う(4番目のコマ)。その結果、新規巻き直しを決意する崎野さんが描かれ、ついに生命保険に加入するという結びとなる(5コマと6コマ)。

この漫画では、保険に加入していない者が不幸のどん底に落ちるようには描かれていない。その理由は、養蚕業者を登場人物にしているからである。片倉財閥の地盤は養蚕業であったため、片倉生命の見込み客は養蚕業者であった。保険に加入しなかった養蚕業者が不幸のどん底におちるよりも、保険未加入を反省した上で保険に加入すれば、安心して養蚕業に励むことができるという結論の方が好ましい。

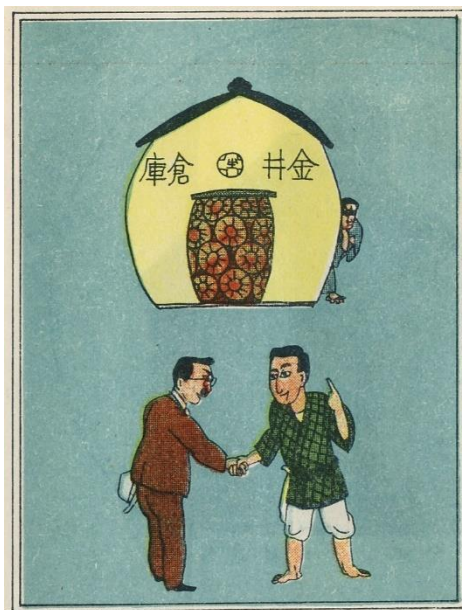
ちなみにこの漫画の作者は、「しげを」とあるが、「宮尾しげを」だと思われる。宮尾は、明治 35 年に生まれの東京都出身の漫画家であり、戦後は江戸風俗研究家としても知られている。1922 年に子供向け漫画「漫画太郎」を新聞で連載してデビューした。代表作は「団子串助漫遊記」。岡本一平に師事しているが、岡本は生命保険の営業史料にたびたび登場する作家。岡本に紹介されたのかもしれない。1982 年に没。



一 養蠶家の金井安全さんは何を措いても生命保険を附けるのが一家の幸福の爲に最も必要なことを知って居るので家業に縁故深い片倉生命保険が確實で然も掛金が低廉から進んで夫婦とも加入し安全さんは保険の掛金丈餘計に養蠶をお内儀は牝鶏の數を増して自分の掛金丈餘分に産ませる工夫する。



二 隣家の崎野明内さんは他人が右と言へば左と云ふ氣性の人で金井さんが生命保険は老後ばかりか加入した其の日から安心で何十年か掛つて千圓貯金するのを即坐に全額貯金したと同様だから結構ぢやないかと隣家の交迫から勸めて遣つても明内さんは相場の大當り等を夢見て居て一向に取合はない。



三 生命保険の加入は一層家業に力が入る基礎となり信用も増して段々身代が大きくなるのを見るに付け隣家の明内さん
も何か一儲けしなけりやならないと焦燥り出した。



四 そこへ山師が付け込んで都合の好い話を持ちかけたので明内さんは柵から牡丹餅と有頂天になつて喜んだお内儀はどんな儲け口でも老後の用意の貯金を悉皆引出すのは心配だと反対したがお前はそれだから運を取り遣がすのだと叱り付けて永年丹精の二百圓も引出して了つた。



五
 成金の夢の醒めた頃は明内さんの家は貯金は勿論目覚ましい
 家財は皆無くなつて了つて居たお内儀は涙片手にモウかう
 なれば仕方がない新規蒔直して稼ぎませう貯金は少し都合
 が悪いと預けるのを忘つたり又引出したりするからやはり
 お隣家の金井さんのおつしやる通り生命保険に致ませう
 子供の行末のこともありますからとしみじみとの相談。



六
 崎野明内さんも此時ばかりは我を張らず早速片倉生命保
 險會社に申込み契約證書を握つた時崎野夫婦は之れで失した
 貯金の何層倍かを片倉さんにお預けしたのも同然だと初め
 て晴々と笑ひ合つた、桑の葉摘みも身軽く、餌道る手にも
 力あり。